

令和2年度いきものガイドウォーク

月日		担当		観察内容	写真1	写真2	コース図
4月	25日			テーマ: コロナにより中止			
5月	30日			テーマ: コロナにより中止			
6月	27日			テーマ: コロナにより中止			
9月	26日	芳野	河野	<p>テーマ:ちいさい秋 参加者2名(1名はFIS)</p> <p>コロナ下で久々の開催。曇りの予報が当日9時の時点で大雨、担当の白田さんと中止を検討中、数分前に参加者が現れガイドウォークの中止を中止しました。初めに芳野さんからアキアカネについて説明があり、その後エノキ、ムクノキや赤い実そしてドングリを中心に観察していきました。皆様、雨の中お疲れ様でした、また参加していただきありがとうございました。マスクをすると話しにくく、また聞きにくかったと思います。早くコロナが収束して欲しいです。</p>			
10月	24日	佐藤	善宝	<p>テーマ: 美味しいドングリ、不味いドングリ～ドングリの姿、かたちや味覚、食べ方いろいろ～</p> <p>天候: 曇りのち晴れ 参加者: 17名 (うち幼児を含む子供6名。当会会員2名)</p> <p>珍しく大勢の参加かつ子供たちの参加を得ての開催となった。国内に自生する22種のドングリのうち、マテバシイ、スダジイ、コナラ、クヌギ、シラカシ、アラカシの6種を確認することができた。事前に公園で採取していたクヌギのドングリで作った独楽ならびに炒ったスダジイおよびマバシイのドングリを楽しんでもらった。ピラカンサやエノキの実を目にしたほか、カツラの落ち葉の甘い香りを体験することができた。</p>			




アキアカネ

エノキ

マテバシイ(左)とコナラ(右)

クヌギ(左)とスダジイ(右)

日本全国の縄文遺跡からは縄文期の人々が食料にした様々な遺物が発見されていますが、東西を問わず出土するものにドングリ塚、クルミ塚、クリ塚、トチ塚など堅い果実の果皮があり、当時の人々がこれらを秋～冬の主食にしていたものと考えられています。さて、どの様に調理(加熱)すれば美味しく食べられるのでしょうか?今日はドングリの姿、かたちの比較だけでなく少しだけ味の方もトライして見ましょう。

11月	28日	青柳	辰尾	<p>テーマ:紅葉を楽しみながら雑木林を探索 天候腫れ 参加者 11名 (当会会員1名含む)</p> <p>前半は、イチョウやイロハモミジの紅葉を鑑賞し、紅葉のメカニズムを解説、エノキやユリノキ、ヒマラヤスギ、ドイツウヒ等の樹木も解説した。</p> <p>後半の雑木林では、チジミザサ、ササクサ、ヤブラン、ジャノヒゲ、クマザサ、アズマネザサ、ヤブタバコを解説。ムラサキシキブやミズキ、ナツツバキ、リョウブ等も解説した。</p> <p>今回は大人だけだったが、ヤブランの実の弾性を試す実験に夢中になったり、ユリノキの種が飛ぶ様子に歓声を上げるなど、楽しんでいただけた様子だった。</p> <p>小氷期の話、特攻隊の池の話、航空公園がフランス式庭園である事、ホモサピエンスが生き残った理由なども織り交ぜ、時間オーバー。</p>			
12月	19日	渡辺	松本	テーマ:			
1月	23日	佐藤	高杉	テーマ:			
2月	27日	河野	善宝	テーマ:			
3月	27日	久保	芳野	テーマ:			

紅葉の裂片を「いろはにほへと」と数えるからイロハモミジと呼ばれます。以前はカエデ科でしたが、今はムクロジ科。蛙の手に似ているので蛙手でカエデだったのに、ややこしくなりました。

ミウガに似た長楕円形の葉を互生させ、葉鞘を形成します。でも、ショウガ科のミウガと異なり、こちらはツククサ科。完全な別種です。